

「トップ10」を目指す 基盤としてのオープンキャンパス

医学部長 喜多 英二

近年、医系・看護系大学においては、偏差値が高いだけでなく、大学のアドミッションポリシーを理解し、医師・看護師になるための資質を備えた学生を求める傾向にあります。オープンキャンパスでは、大学がどんな学生を求め、どのような人材育成を目的としているかを、受験生に周知させる企画に重点が置かれつつあります。

本学オープンキャンパスでは、医学科・看護学科ともに、学長講演、学科紹介、ミニ模擬講義、卒業生や在学学生からのメッセージ、施設見学、入試相談が行われています。先輩からのメッセージは、大学生活や医師・看護師への道筋を知る上で役立ち、毎年人気が高くなっています。入試相談では、医学科は「緊急医師確保枠」、看護学科は「保健師資格取得」に関する質問が多いです。本年は、山中先生のノーベル賞受賞があつてか、基礎研究についての質問が例年より多く、基礎研究体験コーナー企画も意義があると思われます。

本学のオープンキャンパスは大学側が企画・運営していますが、学生主体で実施する大学も増加しています。受験生が求める情報については、学生の方がより良く理解しており、学部学生中心の企画・運営に教員が参加するオープンキャンパスも今後検討すべきではないでしょうか。

医学部選択は偏差値に基づいて行われることが多いため、オープンキャンパスに重要性を感じない教員も多くみられま



す。しかし、本学で学び、卒後も県内で地域医療に貢献しようとする学生、基礎研究で世界に羽ばたこうとする学生、このような熱意がある優秀な学生をより多く獲得するためには、他大学に負けない魅力あるオープンキャンパスを実施し、早くから「奈良医大志望」のマインドを、将来の受験生に持ってもらう必要があると痛感しています。

オープンキャンパスにおいて、教職員、学部学生が力を合わせて、本学にふさわしい受験生を確保する努力を惜しまないことが、トップ10を目指す基盤の一つになるのではないかと思います。

Contents

「トップ10」を目指す基盤としてのオープンキャンパス	1
■オープンキャンパス2013を開催しました／■ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI(研究成果の社会還元・普及事業)を実施しました	2
■村尾佳則先生(昭和55年卒)が近畿大学医学部救急医学教室、救命救急センター教授に就任／■「コンソーシアム実習2(早大・奈良医大連携講座)」が開講しました／■同志社女子大学との連携講座「健康科学概論」を開催しました	3
■平成26年度入試日程／■解剖慰霊祭を挙行了しました	4
■実験動物慰霊祭を挙行了しました	4
■ドイツ・ルール大学で臨床実習研修を実施しました／■東日本大震災被災地の福島県で学生ボランティア活動を行いました／■医学科3年塩谷早紀子さんがヤマト福祉財団奨学採用生にされました	5
■～第65回西医体総合5位～	
■バドミントン女子・剣道女子 準優勝	6
■クラブ紹介(軟式テニス・アンサンブル部)	7
■白樺生祭開催案内／■なかよし保育園で特別支援学校生徒の職場実習を行いました	8
■図書館だより	9
■大学院修士課程助産学実践コースを開設して／■平成25年度看護学科国際看護論Ⅱ チェンマイ海外研修報告	10

■奈良県立医科大学災害対策本部運用訓練を実施しました／■内閣府の【国・地方連携会議を活用した男女共同参画推進事業】に採択されました	11
■研究紹介	12
■産学官連携だより	13
■特別共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業の採択者が決定しました／■研究成果・シーズを出展しました	14
■女性医師のための第2回「カフェ JOYFULL」を開催しました	
■小児センターにキャラクターエプロン等を寄附頂きました	15
■認知症疾患医療センター設立しました／■腹膜透析医学会教育研修機関の認定を受けました	16
■感染管理室・ICT(Infection Control Team)での取り組み紹介／■紀伊半島地域医療連絡協議会を開催しました	17
■活躍する認定看護師／■平成25年度 奈良県看護協会長表彰～A病棟5階 片岡美代子師長～	18
■部門紹介	19
■平成25年度前期公開講座「くらしと医学」を開催しました	
■医療倫理講習会を開催しました	20
■レポート	21
■メディア掲載情報／地域掲示板／編集後記／広告	22

オープンキャンパス 2013 を開催しました

8月3日(土)医学科、4日(日)看護学科の日程でオープンキャンパスを開催し、両日とも約500名の合計1000名という多数の方にご参加いただき、大盛況に終えることができました。

今年の模擬講義は、3日の病原体・感染防御医学の吉川教授による「解虫(解)書 身近な食物から旅行まで」では、身近な話題を題材にした講義内容が参加者にとって非常に興味深く、印象的だったようで、参加者から「全く未知の世界だったが、寄生虫学に興味があった」「先生の話に引き込まれた」など多くの感想が寄せられていました。また、4日の小児看護学の川上教授による「乳児期の子どもの理解 一身体機能の発達一」では、実習用の赤ちゃんの人形を実際に参加者が抱き上げたり、脈拍を測ったりする体験ができ、「赤ちゃんのことがより深く知れた」「入学できたらまた受講してみたい」との声も聞かれました。

先輩からのメッセージでは、在校生に加え、本学附属病院の臨床研修医や看護師の卒業生に参加していただき、参加者は、受験や入学後の学生生活、そして卒業後の自分をイメージしながら、熱心に先輩たちの熱いメッセージに耳を傾けていました。

毎年盛況の施設見学では、日頃学生が実験や演習を行なっている実験施設や実習室、実習先である附属病院の高度救命救急センターやメディカルバスセンター、病棟などを見学させていただきました。教員や現場で働く医師、看護師、技師の方から、実習や仕事の説明、アドバイスなどを聞き、実際の臨場感や現場の雰囲気はわかってよかったとの感想が聞かれました。

他には、本学が連携協定を結んでいる各大学のパネル展示や、栗田書店の協力による教科書展示コーナーなどを設け、担当者や学生が説明を行いました。

今年は参加者への記念品として、学生のアイデアからデザイ

ンされた「オリジナルバッグ」と附属病院とお菓子屋さんが共同開発した「低カロリークッキー」を配付し、参加者に非常に好評でした。

オープンキャンパスの開催にあたっては、学長、医学部長を始め、施設見学で対応いただいた教職員、運営の手伝い等をしてくれた学生ボランティアなど、多数の方々にご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。



医学科 模擬講義



看護学科 模擬講義



施設見学 (老年看護実習室)



施設見学 (高度救命救急センター)

ミニオープンキャンパス初開催!!

10月26日(土) 10:00~17:30

大学祭「白樺生祭」同時開催

学 長 講 演 14:00~14:15

個別入試相談コーナー 10:00~17:30

ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHI(研究成果の社会還元・普及事業)を実施しました



8月3日、4日の両日、本学のオープンキャンパスにあわせ「ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHI(研究成果の社会還元・普及事業)」を実施しました。

この事業は、研究機関で行っている最先端の科学の研究成果について、児童・生徒の皆さんが、直に見る、聞く、ふれることで、科学のおもしろさを感じてもらおうプログラムで、本学では、独立行政法人日本学術振興会の委託事業として採択を受け『命を創る子宮とそれを脅かす病~どうしたら病気にならないか~』(実施代表者:産婦人科学 小林 浩教授、8月3日19名、4日12名受講)と『心臓と血管の形づくりと病気~医学研究と診療の両面から~』(実施代表者:循環器システム医科学 中川 修教授、8月3日20名受講)と題して実施しました。

産婦人科学のプログラムでは、若い女性がかかりやすい子宮の病気の原因とその予防などについての講義や胎児超音波をシミュレーション機器を用いて自分で体験し、講義や実習を通して、子宮の中で育っていく赤ちゃんを観察し、生命の尊さや子

宮の大切さを学び、どのようにしたら大切な子宮を病気から守ることができるかを自ら考えました。

循環器システム医科学のプログラムでは、どのように心臓や血管が形づくられるのか、また先天性心疾患や成人の心臓や血管の機能異常について、大学医学部で日頃行われている研究や診療を実際に体験することで、生命の尊さを学び、医学を身近に感じることができました。

すべてのプログラムが終了した後、受講生一人一人に未来にはばたく知識を取得した証として、修了証書「未来博士号」が授与されました。



実習風景

村尾佳則先生(昭和55年卒)が近畿大学医学部救急医学教室、救命救急センター教授に就任

本学出身の村尾佳則先生が近畿大学医学部救急医学教室、救命救急センター教授に就任されました。村尾先生は、昭和55年に本学を卒業し、第一外科学教室に入局されました。平成8年には、救急科教室に異動され、平成17年まで本学で勤務されました。心からお祝い申し上げます。



近畿大学医学部救急医学教室、
救命救急センター教授就任報告

昭和55年卒業

村尾 佳則

同窓会の皆様におかれましては、ますますご清祥のことと存じ上げます。この場をお借りして、ご挨拶申し上げます。

さて、私こと、平成25年6月1日付けをもちまして、近畿大学医学部救急医学教室、救命救急センター教授に就任いたしました。

現在、近畿大学医学部付属病院は救命救急センター30床を含む、67床の救急災害棟を建築中です。今秋、竣工で12月1日に新棟での診療開始予定です。この救急災害棟には教授職が5人配属されています。院内各科との連携を取りつつ救急災害医療の充実のために、頑張りたいと思いますので、皆様のご支援を賜りたく、御指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(教育支援課)

「コンソーシアム実習2(早大・奈良医大連携講座)」が開講しました

本学と早稲田大学が連携協力に関する協定を結んだ2008年の12月以来、毎年度、多様な連携事業を実施していますが、今回は、8月20日(火)から24日(土)までの5日間「日本の地域医療、へき地医療の現状と将来：奈良県の現場から」をテーマに掲げ、本学において、早稲田大学・奈良県立医科大学連携講座が開催されました。

本学の今村知明教授が「地域医療政策」及び「病院での経営改善」、車谷典男教授が「疫学入門」を、早稲田大学からは、長谷川恵一教授が「医療経営」、須賀晃一教授が「医療経済のガバナンス」、甲斐克則教授が「医療事故と刑法」、土田友章教授が「医療倫理」について、それぞれ講義を行いました。

また、県立五條病院へき地医療支援部長の中村達先生には、へき地臨床医の観点から、奈良県医師会副会長の竹村恵史先生には、地域臨床医の観点から、講演をいただきました。

さらに、最終日には場所を吉野町に移し、両校の学生以外にも、県内診療所の医師、保健師、行政職員、他大学の医学生も参加した「地域医療ワークショップ」において、地域医療の現場である吉野病院の國松幹和院長、福岡篤彦副院長から講演を

いただいたほか、院内施設の説明や案内を受けました。その後、本学の藤本眞一教授進行のもと「地域住民を守る奈良の医療とは～問題点と対策～」を考えるワークショップを行い、実際にへき地医療に関わる先生方や行政担当者とともに各班に分かれ、これまで学んだことを踏まえながら、それぞれの立場から熱心に議論を行いました。



早大・奈良医大の学生および教職員

同志社女子大学との連携講座「健康科学概論」を開催しました

本年度、2回目の同志社女子大学との連携講座「健康科学概論」を9月2日(月)から6日(金)までの5日間、本学で開催しました。この講座は同志社女子大学の教員による15講義で構成されており、本学からは医学科の学生7名が、同志社女子大からは薬学部の学生3名が参加しました。講義は薬学に関するものを



同志社女子大学教授による講義

を中心に、栄養学、環

境ホルモン、音楽療法等、幅広い内容のものでした。本学からの参加者は普段の講義では受講できない内容のものを受講し、また、同志社女子大学の学生・教員との交流を行いました。来年度は本学の教員が同志社女子大学のキャンパスで「医学概論」を両校の学生を対象に行う予定です。

医学科1年生 建部 壮君

「予防医学の観点から、食事・生薬・音楽療法等、今回の講義内容に興味を持ち、受講をしました。講義の内容は医療に関係したものでだったので、来年度から専門教育に入る私にとっては、医学に関係する講義を受講でき、貴重な機会となりました。」

平成 26 年度入試日程

医 学 部

学 科	入試区分	募集定員	出願期間	試 験 日	合格者発表 (予定)
医 学 科	推 薦 ^{*1}	38	平成 25 年 12 月 10 日(火)~ 12 月 13 日(金)	平成 26 年 2 月 1 日(土)・2 月 2 日(日)	平成 26 年 2 月 12 日(火)
	前 期	22	平成 26 年 1 月 27 日(月)~ 2 月 5 日(水)	平成 26 年 2 月 25 日(火)・2 月 26 日(水)	平成 26 年 3 月 6 日(木)
	後 期	53		平成 26 年 3 月 12 日(水)・3 月 13 日(木)	平成 26 年 3 月 20 日(木)
看 護 学 科	推 薦 ^{*2}	30	平成 25 年 11 月 1 日(金)・11 月 5 日(月)	平成 25 年 11 月 23 日(土)	平成 25 年 12 月 10 日(火)
	社会人	5			
	前 期	40	平成 26 年 1 月 27 日(月)~ 2 月 5 日(水)	平成 26 年 2 月 25 日(火)・2 月 26 日(水)	平成 26 年 3 月 6 日(木)
	後 期 ^{*2}	10		平成 26 年 3 月 12 日(水)	平成 26 年 3 月 20 日(木)

* 1 医学科推薦入試は「緊急医師確保特別入学試験」(13 名)と「地域枠入学試験」(25 名)を実施します。

* 2 看護学科の推薦選抜試験と後期日程は地域枠のみ募集します。

詳しくはホームページで確認してください (<http://www.naramed-u.ac.jp/user/examinee.html>)

なお、看護学科の推薦・社会人入試募集要項は 9 月下旬から配布中です。医学科推薦入試募集要項は 10 月下旬、その他の募集要項は 11 月下旬から配布予定です。

解剖慰霊祭を挙行了しました

平成 25 年 9 月 19 日 (木) 午後 3 時から大講堂において、第 67 回解剖慰霊祭が執り行われました。系統解剖及び病理解剖に貴重なご遺体を提供していただいた方々のご遺族や、献体登録を申し出ている奈良医大白菊会会員、来賓の方々、教職員、学生等、合わせて約 350 名の方々が参列されました。

今年は新たに、系統解剖 33 柱、病理解剖 40 柱の計 73 柱の御霊を加えて、6116 柱の御霊をお祀りさせていただきました。参列者全員の黙祷の後、学長の祭文奉読、学生を代表して医学科 3 年生総代の木下友希さんからの感謝文奉読後、参列者が献花を行い、最後に学長の御礼の挨拶により終了しました。

医師、看護師を志す者にとって解剖実習を通じ人体の構造を知ることは避けて通れない道です。尊い意思を持ち、医学の発展と医学教育のために自らの体を捧げてくださった方々の崇高

なるご遺志に改めて深い感謝の意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



御礼の言葉を述べる吉岡学長

(研究推進課)

実験動物慰霊祭を挙行了しました

実験動物慰霊祭を 9 月 20 日 (金) に行いました。これは、実験動物の尊い生命に対し、哀悼の意を表すもので、毎年実施しています。

学長の祭文奉読後、多くの関係職員及び学生が献花を行いました。

私たち生命医学に携わる者は、動物の生命を尊重する必要がありますが、やむなく動物実験を必要と判断したときは、動物に対して博愛的な敬愛を払うという道徳上の義務を失うことなく、犠牲になる動物数の削減に努め、動物の生命から得られた貴重な情報を研究成果として広く社会に還元できるよう努めなければなりません。



祭文を奉読する吉岡学長

ドイツ・ルール大学で臨床実習研修を実施しました

教育開発センター 教授 藤本 眞一

奈良県立医科大学とドイツ・ルール大学は、平成 22 年 4 月から連携協定を締結し、臨床実習での学生の相互交流を行っています。本年は、第 6 学年の 8 名の学生が、ルール大学で 1 か月間の臨床実習を実施することができました。帰学した学生からの報告によると、ルール大学で、きわめて充実した診療参加型の臨床実習を体験できたということです。このような経験をした学生が年々増加し、その体験を下級生や教員にフィードバックすることにより、本学の臨床実習が益々改善されていくことを期待しています。写真は、ルール大学の新聞に 8 名の

奈良県立医科大学学生が留学していることが紹介された記事から転載したものです。



ルール大学への留学生

東日本大震災被災地の福島県で学生ボランティア活動を行いました

本学学生 11 名（医学科 9 名、看護学科 2 名）は、平成 25 年 8 月 20 日（火）から 25 日（日）の間、和歌山県立医科大学の学生とともに福島県を訪ね、ボランティア活動や被災地の視察を行いました。南相馬市では、仮設住宅で実施されているサロンに参加し避難住民の方と、広野町の高野病院・特別養護老人ホーム花ぶさ苑では入院・入所されている方と交流しました。福島県立医科大学では、学生向け災害医療セミナーに参加し、災害医療について学ぶとともに、自治医科大学、熊本大学などからの参加学生とも交流を深めました。



大講堂前での出発式

学生災害ボランティアバス復興支援活動に参加して

医学科 1 年 相間 勝登

僕は、災害医療に関心があったので今回のボランティアバスに参加させていただきました。震災から 2 年半が経ちましたが、20 キロメートル圏内では想像していたよりもずっとひどい地域がありました。辺り一面は家や物が崩れた跡と荒地しかなく、絶望を感じました。しかし、去年はこれと似たような状況でした

が、復興の兆しを見せ始めているところもありました。徐々に人々の手で元の街へと戻りつつあることに、人の力を感じました。

天災はいつどこで起こるかわからないものです。だから僕たちが、皆さんにもっと被災や被害の状況を伝えていくとともに、多くの方に是非一度実際に被災地へ足を運んでもらいたいと感じました。そこで今、同じ日本でどのようなことが起きているのか、現地の人々が何を感じておられるのかを知らなければいけない、そうしないとまた同じようなことが起きるかもしれない、と。それをできるだけ防止するために、今回のボランティアバスで得たものを今後、生かしていきたいと思います。

他大学の学生の方、仮設サロンの方、病院の方など、いろいろな人との交流は楽しく、今回の経験で医師になることへのモチベーションがよりいっそう高くなりました。今回のボランティアバス実施にあたっていろいろな経験の機会を与えて下さった先生方ならびに先輩方に感謝します。本当にありがとうございました。



仮設サロンでの傾聴活動



被災地の視察

医学科 3 年塩谷早紀子さんがヤマト福祉財団奨学生に採用されました

本学医学科 3 年生の塩谷早紀子さんが平成 25 年度ヤマト福祉財団奨学生に採用され、去る 7 月 9 日、学長室において、ヤマト運輸株式会社関西支社社会貢献担当マネージャー島田様より奨学金の目録が授与されました。

この公益財団法人ヤマト福祉財団奨学生は、障害のある方々の自立と社会参加を支援する活動の一環として設けられた制度で、大学在学中に、社会のためにどのような貢献をするのかを考え、卒業後は就労して自立する意思のある学生のなかから選考により、採用されます。

塩谷さんは、本学で初めて、車いすを必要とする学生として平成 23 年に入学しました。患者さんの気持ちを最優先に、病気の辛さのわかる医師を目指して、すべての授業に対して積極的に取り組んでいます。また課外活動では弓道部に所属し、熱心に活動しています。これらの文武両面にわたる前向きな活動が財団の選考委員会に評価され、全国で 7 名、関西から 1 名の採用に至りました。

塩谷さんからは「自分が恵まれた環境で勉強できていることに感謝しています。これからも感謝の気持ちを忘れず、支援し応援してくださっている方々のためにも良い医師を目指してがんばりたいと思います」と喜びの言葉が寄せられています。



前列塩谷早紀子さん 後列左から、嶋田ヤマト運輸（株）関西支社社会貢献担当マネージャー、吉岡学長、石指准教授

～第 65 回西医体総合 5 位～ バドミントン女子・剣道女子 準優勝

今年も西日本医科学学生総合体育大会が開催されました。総合成績は5位で、バドミントン女子、剣道女子が準優勝し、硬式テニス女子、ソフトテニス男子、バスケットボール女子が上位の成績を収めました。

- ◆期 間：平成 25 年 8 月 1 日～ 8 月 18 日
- ◆代表主管校：九州大学
- ◆参加大学数：計 44 大学
- ◆主 管：九州・山口ブロック
- ◆競 技 数：21

「感謝の心で練習」

バドミントン部 医学科 4 年 喜多 桃子

第65回西医体バドミントン部門は8月9日から4日間、山口県で開催されました。私たちは女子団体戦で準優勝という結果を残すことができました。これまでなかなか思うような良い成績を出せなかったのが、今回の準優勝という結果は本当にうれしいです。暑い体育館での練習の成果と、部員全員の熱い応援によってつかんだ勝利だと思います。

こうして大会に向けて日々練習に打ち込むことができるのは、このバドミントン部に御指導、御支援くださるOB、OGの先生方のおかげです。先生方への感謝の思いを忘れず、これからも部員一丸となって練習に励んでいきたいと思ひます。西医体後は秋大会、新人戦、春大会と公式戦が続いていきますが、ご期待にそえるような成績を残せるように部員一同努力していきます。



【団体】

競技名	成績	競技名	成績
硬式テニス	男 1回戦敗退	卓球	男 6位
	女 ベスト4		女 6位
ソフトテニス	男 ベスト4	陸上競技	男 17位
	女 1回戦敗退	水泳	男 23位
サッカー	ベスト16	空手道	男 ベスト8
準硬式野球	1回戦敗退		女 ベスト8
バスケットボール	男 2回戦敗退	剣道	男 ベスト16
	女 ベスト4		女 準優勝
バレーボール	男 ベスト8	ハンドボール	予選敗退
	女 ベスト8	ラグビー	ベスト16
バドミントン	男 1回戦敗退	ゴルフ	27位
	女 準優勝	合気道	段外の部 最優秀演武賞
弓道	男 17位		
	女 30位		
柔道	ベスト16	総合	5位

剣道部 医学科 4 年 青木 郁樹

去る8月13、14日に第65回西医体剣道部門が福岡市民体育館で開催され、私達剣道部は女子団体戦において準優勝という結果を残すことができました。

剣道部員が年々増し嬉しい反面、大所帯をまとめるのは大変で、この一年間衝突したことは少なくありませんでした。しかし、そのたびにみな勝ちたい気持ちは一緒なのだとな確認することができ、その後の一層気持ちのこもった練習が結果に繋がったのではないかと思います。

また何より、部長の先生をはじめ、たくさんのOB、OGの先生方のご支援、ご指導のおかげであると深く感謝しております。

優勝こそありませんでしたが、今大会で得たものは大きく、技術的にも人間的にもひとつ成長できたような気がしました。

この夏から幹部が交代し、私達は新キャプテンのもと再び練習に励んでいます。しんどいときにこそ初心を忘れず精進して参りたいと思ひますので、今後ともよろしくお願ひ致します。



【個人】

競技名	成績
空手	女 森ちひろ 組手 第3位 廣嶋麻那 個人形準優勝
	水泳
バドミントン	女 喜多桃子 個人戦シングルベスト8
陸上	男 服部貴憲 走り高跳び 1位
	女 高 由美 800m 3位

クラブ紹介



軟式テニス部

「楽勝（楽しく勝つ）部」

部員 ▶ 56人

顧問 ▶ 三笠 圭一（感染症センター教授）

キャプテン ▶ 男子 久保 裕紀（医学科3年）

女子 藤本 侑花（医学科3年）

活動日 ▶ 月、水、金 or 土（週3回）

奈良県立医科大学ソフトテニス部は医学科だけで構成され、1年10人、2年5人、3年12人、4年9人、5年9人、6年7人の計56人の人数の多い部活です。

練習場所は大学の学校コートで行っており、2時間で集中的に練習しています。それ以外にもコートが使える時間は自主練習をして自分たちで教えあい仲良く練習に取り組んでいます。大会では個人戦で全員が出場できるので向上心を持って練習に励んでいます。

今年の大会では西日本医科学生総合体育大会で男子4位、春季東海医科学生体育大会で男子準優勝、女子準優勝という結果を納めています。次のシーズンでも今年度の成績に満足せず上を目指して日々切磋琢磨しています。

奈良医大ソフトテニス部は入ってくる時は初心者が多いですが、そういう人でも楽しくテニスができる練習メニューを考えています。また先輩やドクターの方々がやさしく指導してくれるので誰でもレベルアップしていくことができます！

ソフトテニス部の最大の魅力は人数が多くさまざまな人がいることです！ホームパーティーや旅行、遊びに先輩後輩関係なく一緒にいくことも楽しいですが、部全体でBBQ等をしたときの盛り上がりは最高です。

ソフトテニスに興味がある人、ない人も関係なく一度テニスコートに遊びに来てはいかがでしょうか！



アンサンブル部

「モーツァルトとお友達になれます」

部員 ▶ 12人

顧問 ▶ 福井 博（第三内科学教授）

キャプテン ▶ 佐和 明裕（医学科4年）

活動日 ▶ 水・木（週2日）

私たちアンサンブル部の活動内容を知らない人はたくさんいると思うのですが、簡単に言うと、弦楽器でクラシックを演奏しているクラブです。ヴァイオリンやヴィオラ、チェロなどの楽器があります。クラシックと聞くと取っつきにくいイメージがあるかもしれませんが、そんな心配はいりません。部員の多くは初心者で、クラブの楽器を使って活動できます。また、先輩に、基礎からしっかりと教えてもらえるので、だんだんと上手に弾けるようになります。主な活動内容は、週2回の練習と、年2回の定期演奏会、その他に幼稚園などに訪問演奏会に出かけることもあります。

オーケストラはスポーツでいうところの個人競技ではありません。一人一人の演奏する音が融合して一つの音楽をつくるという点で、団体競技と同じと言えるでしょう。このようなクラブ活動に、勉強と同じくらい熱心に取り組むことで、将来、医療人としてチーム医療を行う際に不可欠となる協調性や連帯感といったものを身につけることができると考えています。クラブ活動に打ち込みたいけれども、激しいスポーツが苦手だという方は、是非、アンサンブル部を覗いてみて下さい。

日時：10月25日(金)～27日(日)

テーマ：「いつ奈良医大に行くか？今でしょ！！」

今年も大学祭の季節が近づいてきました。例年以上に盛り上がるように学祭委員が趣向を凝らしたたくさんのイベントを開催致します。主なイベントをご紹介します。



トークショーゲスト
玉木 宏さん

- シンポジウム 10月26日⊕
「これからの再生医療～欲しい組織をつくる～」
- トークショー 10月27日⊕
「玉木宏トークショー」 入場料：1000円
- ミニオープンキャンパス 10月26日⊕
学長講演・個別相談コーナー
- 展示 10月26日⊕
スキルスラボ(医療検査・手技の体験コーナー)
- ステージ企画 10月26日⊕・27日⊕
- 献血 10月27日⊕
- 模擬店・チャリティーバザー 10月26日⊕・27日⊕

この他にも多くのイベントを予定しております。場所、時間など詳細は奈良県立医科大学 2013年度白檀生祭 HP (<http://naraigakusai2013.wix.com/kashifusai>) をご覧ください。

白檀生祭の運営にあたり、教職員・病院関係者の方々、同窓会、地域の皆様の多大なるご協力、ご援助をいただいております。この場をお借りしてお礼申し上げますとともに、今後もより良い白檀生祭を目指して参りますので、何卒ご協力よろしくお願ひ申し上げます。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

(総務課)

なかよし保育園で特別支援学校生徒の職場実習を行いました

本学では障害者雇用への理解と雇用の促進を図るための取り組みを進めています。

その一環として、8月19日から30日に県立高等養護学校生徒の職場体験実習をなかよし保育園で行いました。3年生の石原理江子さんと福田菜々美さんが実習を行いました。2人とも将来子どもに関わる仕事がしたいということで実習の希望がありました。

石原さんは昨年度に続き2度目の実習で余裕のスタート、福田さんははじめての経験とのことでやや緊張のスタートとなりました。

実習は園内掃除業務、子どもたちの持ち物の整理、食事時の補助など保育士の補助的業務を体験してもらいました。

園内掃除は厳しい暑さの中での業務であったし、食事補助では子どもたちが次から次へとこぼす食べ物の後始末などにヘトヘトの様子でしたが、日に日に仕事を覚え、終盤には指導が無くとも一人で業務をこなすまでになっていました。

最終日には、しんどい事もあったが子どもたちとのふれあいが楽しかったと感想を述べてくれました。子ども



実習の様子

に関わる仕事に就きたいとの思いを深めてもらえ、卒業後の進路検討の参考にしてもらえる経験になったのではないかと感じています。また、保育士からは、一スタッフとして十分に戦力になってくれたので負担軽減にも繋がり、実習終了を惜しむ声があり、本学にとっても有意義な機会となりました。

この実習を通して、障害者雇用の機会を広げていくことの必要性を改めて認識し、今後とも障害者雇用への理解と取り組みを進めていきます。

〈実習を終えての感想〉

石原理江子さん

「10日間実習して楽しかった事は、リス組の子ども達と一緒に遊べた事です。頑張った事は掃除です。隅々まできれいに掃除をするのが大変でした。10日間実習して、将来保育園で働きたい気持ちがとても強くなりました。」



福田菜々美さん

「なかよし保育園で10日間実習させて頂いて、初めの間はわからない事ばかりで、しんどくて、大丈夫かな～と思いましたが、日が経つにつれ、慣れてきて楽しくなって思えるようになりました。いい経験の出来た実習になりました。」



図書館だより

図書館利用の基礎知識

第3回 図書館資料の道しるべ：OPACのご紹介（雑誌【プリント版】の探し方）

前回は単行本の探し方を紹介しました。今回は雑誌の探し方です。最新の研究成果が発表される雑誌は、医学や看護学の実験で大変重要な情報源となります。OPACを使った雑誌の探し方をマスターすれば、最新の動向をつかめるようになります。ただし、OPACでは電子ジャーナル（オンラインで閲覧できる雑誌）は検索できませんのでご注意ください。電子ジャーナルについては次回にご紹介します。

【雑誌タイトル検索】

読みたい雑誌が決まっている場合は、そのタイトルで検索します。

- ① 画面右上「雑誌検索へ」をクリックし、雑誌検索画面へ
- ② タイトルを入力
- ③ タイトルの出だしがわかっている場合は「で始まる」を、一部分しかわからない場合は「を含む」を選び、検索開始 ※イニシャル検索もできます。

図 1. 雑誌タイトル検索



図 3. 特集テーマ検索



特集テーマで検索した場合は、特集名の後ろに雑誌のタイトルと巻号が（ ）内に表示されます。読みたいときは、特集名だけでなく、雑誌タイトルと巻号もメモするようにしましょう。検索結果を詳細表示にした場合は、雑誌タイトルは「標題および責任表示」に表示されます。

図 4. 検索結果



【検索結果】

検索結果は、図 2 のように表示されます。タイトル、配架場所、請求記号のほかに、検索結果の所蔵巻号を確認します。目的の雑誌が図書館に所蔵されていても、初号から最新号まですべてが揃っているわけではありません。必ず目的の巻号があるかどうかを確認して下さい。また、巻号一覧をクリックすると各巻号の状態が表示されるので、貸出中かどうかのチェックができます。

図 2. 検索結果



【特集テーマ検索】

読みたいテーマを特集名で検索することもできます。

「全ての項目」に「特集△テーマ」（△はスペース）と入力し、検索開始（図 3）

雑誌は図書館ではアルファベット順に並んでいます。図書館で雑誌を探すときは、雑誌名、請求記号、配架場所、巻号の4つが大事です。この4つさえメモすれば、スムーズに目的の資料にたどりつけます。逆に、長い特集名をどれだけきっちりメモしていても、この4つが欠けていればお目当ての資料にはたどりつけませんので、ご注意ください。

OPACを活用すれば、図書館資料の効率よい利用につながります。目につくところ以外にも、勉強や研究に有用な本は図書館のあちこちに所蔵していますので、OPACを活用し、図書館資料を余すことなく利用して下さい。

大学院修士課程助産学実践コースを開設して

大学院看護学研究科 女性健康・助産学 教授 脇田 満里子

奈良県立医科大学では、助産師教育を修士課程に位置づけ、助産学実践コースとして平成 24 年からスタートしました。

助産診断・技術学の到達度は助産学特論や助産学演習を細分化することにより、各専門分野における助産診断と技術の項目の到達度を明確にし、形成評価をすることでさらにその助産診断と技術の向上を図ることを期待しています。

また、平成 22 年に本学附属病院に助産外来およびメディカルバースセンターが設置され、バースセンターを主たる実習場とすることで、助産師本来の業務である正常な妊娠の診断から妊娠・分娩・産褥期および新生児期の経過診断を継続的にかつ自律して行い、その経過に沿った助産ケアを提供していく一連の実習が可能となっています。

さらに 2 年次で助産所における継続事例実習や地域での助産師による活動に参加することで高度な実践能力を有する助産師の育成に繋がるといえます。

必修選択としている周産期看護学特論と女性健康学特論、周産期看護学演習と女性健康学演習を合わせて履修し、また助産学実習を展開する中で研究テーマを絞り込み、2 年次に周産期看護学特別研究あるいは女



吉岡学長に受賞を報告された脇田教授



助産学実践コースの院生と教員

性健康学特別研究として修士論文をまとめていきます。

現在、女性健康・助産学領域では 1 年生・2 年生合わせて 9 名の院生が学んでおり、この 5 月から合同の院生ミーティングを月 1 回の割合で開催しています。

研究テーマや研究計画、継続事例の展開などの発表や意見交換を通して学びの共有を図っています。このことで、院生同士のより良い関係が築け、お互い良い刺激になっているようです。

奈良県立医科大学の助産師教育の変遷は看護専門学校助産学科、短期大学部専攻科助産学専攻、医学部看護学科助産選択コースを経て今年度大学院での助産学実践コースの完成年を迎えます。

今春、奈良県助産師会の推薦を受けて、日本助産師会会長賞を戴きました。今後、さらに修士課程に位置づけた助産学実践コースとして発展していくことを願っています。

引き続き、皆様方のご指導とご鞭撻の程を宜しくお願い致します。

平成 25 年度看護学科国際看護論Ⅱ チェンマイ海外研修報告

看護学科 勝井 伸子・山名 香奈美

2013 年 8 月 13 日～ 21 日、国際看護論Ⅱ（選択科目）海外研修に、教員 2 名が引率して学生 17 名（学部生 14 名、編入生 3 名）が参加しました。チェンマイ大学看護学部は、学部生 800 名、修士課程 500 名、博士課程 100 余名、英語のみのインターナショナルプログラムも設けられ、アジアや欧米から学生が学びに来ています（看護学科は 2006 年に交流協定を締結し 2007 年から国際看護論海外研修を実施）。

研修は、タイ医療全体に目配りしつつ伝統医療に着目した 9 つのテーマで午前に大学で英語での講義を受講し、午後に関連施設を見学しました。タイ伝統医療治療院では、北部タイ（ランナー）伝統医療を代々継承する家系のブンチャー師による伝統医療（トク・センなど）を見学、一部体験し、数百年前の医学書にも触れました。外国人対象のマッサージスクール（ITM）では、ハーバルボール（薬草を用いた温電法の道具）作成の演習をしました。北部タイの精神科拠点病院である Suan Prung Hospital（700 床）では、覚せい剤中毒やアルコール依存症患者の病棟を見学し、チェンマイ県保健センターでは常駐の HIV/AIDS 専門コーディネーター（看護師）から、HIV 陽性のヘルスボランティアを含む活動について話を聞き、活動拠点のカウンセリングルームを見学しました。その他、昨年開設の伝統補完医療センター（タイ国初の国立施設）では、患者の受診制度（西

洋医学の間診後、中国医療かタイ伝統医療のどちらかを患者が選択する）等の説明を受けた後、両医療施設を見学しました。また、交通事故が非常に多いタイ国の特徴を学ぶため、チェンマイ大学病院整形外科病棟を特別に見学し、スタッフの工夫（印象的な手作り装具など）を知りました。

多岐にわたるテーマで密度の濃い研修でありましたが、参加学生は英語でのコミュニケーションに戸惑いながらも、伝統医療体験などを楽しみながらタイ文化に根差した看護・医療への理解を深め、チェンマイ大学学生と日本の学生（本学、琉球大、宮崎県立看護大）の交流会で大いに親睦を深めました。

なお、今年度は日本学生支援機構の支援を受けることができ深く感謝しています。受講生は一定以上の英語能力と、自発的なコミュニケーション意欲が期待されます。



伝統医療治療院ブンチャー師と一緒に

奈良県立医科大学災害対策本部運用訓練を実施しました

場 所：蔵書会館 3 階 大ホール

テーマ：大規模地震（震度 6 強）を想定した初期活動訓練

8 月 7 日（木）に災害対策本部運用訓練を実施しました。

本学の大規模地震災害対策本部基本マニュアルでは、大規模地震が発生した際、「災害対策本部」、「自衛消防・防災隊」、「(仮称) 基幹災害医療センター」が組織され、稼働します。「災害対策本部」は、それらの組織全体の中軸的役割を担い、活動方針の決定や指示、構内全域の被災状況の把握と対応、復旧措置の実施、また病棟部門における医療活動の継続などの対策を講じます。

今回の訓練では、平日の午前中に橿原市内で震度 6 強の地震が発生。広範囲に停電が発生して（自家発電設備稼働）、水道・医療用ガス以外のガス供給停止という想定で訓練を行いました。

役員を含む災害対策本部構成員が一同に出席した中で、編成直後の情報収集や被災状況の把握、災害対策本部活動方針の検討・決定にかかる実践訓練を行うことにより、災害発生時における活動の理解を深めることが訓練の目的です。

訓練の中では、様々な点について議論がなされました。

災害時の具体的な行動や設備の現況、備品、食糧・飲料水の確保の問題など、今後さらに整備していかなければならない課題が浮き彫りとなりました。

参加した本部構成員からは、「今回のような役員が一同に介する防災訓練は、(自分達が知る限りでは) 初の取り組みであり、初期段階として非常に有益であった。今後とも継続的にしっかりと取り組んでいきたい」との意見や感想が聞かれ、大変有効な訓練となりました。

今秋には、中和広域消防組合も含めた大規模な総合防災訓練を開催する予定です。



運用訓練の様子



余震発生想定時訓練の様子

内閣府の【国・地方連携会議を活用した男女共同参画推進事業】に採択されました

内閣府が募集を行った「国・地方連携会議を活用した男女共同参画推進事業」に本学女性研究者支援センターの提案が採択されました。

この事業は、男女共同参画社会づくりに関して、国民的な取り組みを推進するため、内閣府及び男女共同参画推進連携会議と共催で実施するセミナー・シンポジウムの企画を募集されたもので、本学は「女子中高生の医理系進路選択支援」をテーマとした企画を提案しました。その結果、本学の提案のほか一般社団法人国立大学協会や一般社団法人国際女性教育振興会の提案など全国で 9 提案が採択されました。

この採択を受けて、下記のとおり事業を実施します。

事業内容

事業名 女子中高校生の医理系進路選択支援
～医理系の研究って、すっごくおもしろい!～

日 時 平成 26 年 1 月 11 日 (土) 10:00 ~ 16:00

場 所 奈良県文化会館小ホール (奈良市)

共 催 内閣府、男女共同参画推進連携会議、一般社団法人奈良県医師会、一般社団法人大学女性協会
奈良支部

後 援 奈良県、奈良県教育委員会、奈良県私立中等高等学校連合会、一般社団法人奈良県病院協会、株式会社奈良新聞社

内 容 第 1 部 基調講演

タイトル「私の進んできた道、そしてこれから」
(講演者 1)

大林千穂 / 奈良県立医科大学 医学部教授
(講演者 2)

森本恵子 / 奈良女子大学 生活環境学部教授
第 2 部 パネルディスカッション

タイトル「女性が医理系分野で研究するには」
第 3 部 サイエンスカフェ

サイエンスカフェ形式で話し合い、意見交換をする。医理系を選択した理由や将来への希望などのテーマをもとにした自由な討論を行います。

対 象 第 1 部、第 2 部

中高生及び保護者、教員 250 名程度
第 3 部
中高生 60 名程度

研究紹介

1000年に1回の発見ができた！

— 研究・臨床・大学の思い出と将来への発展 —

耳鼻咽喉・頭頸部外科学
住居医学(兼)

教授 細井 裕司



私が行ってきた研究を耳鼻科の基礎と臨床ならびに住居医学から1つずつ取り上げます。

1) 1000年に1回の発見「軟骨伝導聴覚」

人は内耳(鼓膜ではありません)で音を聞いています。音源から発せられた音が内耳に到達する経路には1000年以上前から2経路が知られています。気導と骨導です。気導は音源の振動が空気の疎密波を作り、これが鼓膜に達して中耳を通り内耳に伝えられる通常の経路です。骨導は骨に振動子をあてるなどの方法で骨(内耳が入っている側頭骨)を振動させ、その振動が鼓膜を介さずに直接内耳に到達する経路です。骨に当てて聞く骨導スピーカが販売されています。現在の耳鼻科の教科書にもこの2経路しか記載されていません。

2004年に私は第3の経路を発見し、軟骨伝導と名付けました。この経路は、医学的応用だけでなくスマートフォンや一般用のイヤホンなどに応用することによって世界のすべての人に今まで実現できなかった音響機器の提供を可能にします。現存の気導や骨導補聴器では実現できない全く新しい補聴器が実現できます。軟骨伝導補聴器はすでに厚労省から3000万円の補助を得て開発がスタートし、本年7月には経産省からの2億円の補助が決定しました。まさに世界で奈良医大のみが行っている研究です。経産省には3年後の実用化を約束しています。図1に軟骨伝導経路を示します。

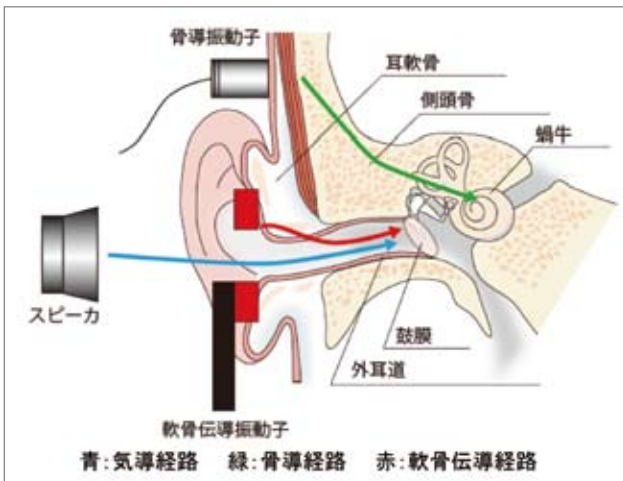


図1 1000年に1回の発見—軟骨伝導聴覚—

2) 中耳真珠腫の新技术法(細井法) 世界的に普及

中耳真珠腫は手術をしても再発があるので再発しない手術法が求められていました。私は、1989年に「軟素材による外耳道再建型鼓室形成術」(細井法とも呼ばれています)を開発し、実施してきました。現在私の手術法が国内では最も多くの医師に採用され、世界的にも普及してきています。また、耳科手術全般(質と数)においても、奈良医大は全国的に有数の大学として認められています。

3) 大学の思い出と将来への発展

住居医学講座を創設しました。2005年に住居と医学の融合による新しい学問分野を想起し、実現のため大和ハウス特別顧問(第2代目社長)と面会し、奈良医大最初の寄附講座(6年間で6億円、現在2年間の延長中)を実現しました。現在、住居医学講座では新駅、国際会議場、ホテル、ショッピングセンターなどを備えた奈良医大を中心としたまちづくり(医学を基礎とするまちづくり:MBT)の構想を研究しています(図2)。この研究は奈良医大の将来の発展に大きな意義があると思っています。

その他、2008年に早稲田大学白井総長(当時)に会い、奈良医大と早稲田大学の連係を実現したこと、入試改革を行い京大や阪大の医学部に匹敵する学生を迎えることができたことなどが特に印象に残っています。これらもまちづくりと並んで、将来の奈良医大の発展に寄与する大きな要素だと確信しています。



図2 住居医学講座による奈良医大を中心としたまちづくり構想のイメージ図

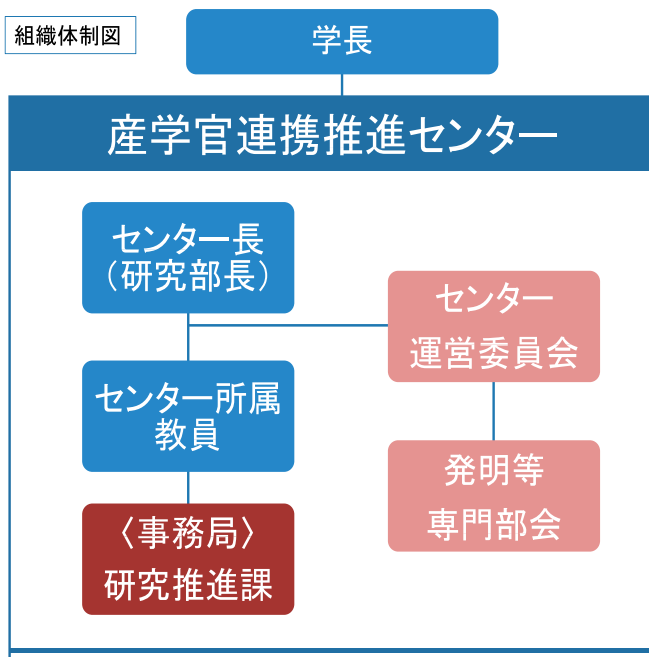
産学官連携だより

本学の産学官連携体制の整備状況について

本学では、平成 23 年度に産学官連携推進センターが設置され、小西センター長のもと、産学官連携推進体制の構築に取り組んでまいりました。同年 10 月 6 日には産学官連携・知的財産・利益相反の各ポリシーが制定され、これらのポリシー下での職務発明等規程の改正、共同研究取扱規程・受託研究取扱規程・研究試料取扱規程の整備を順次実施しました。

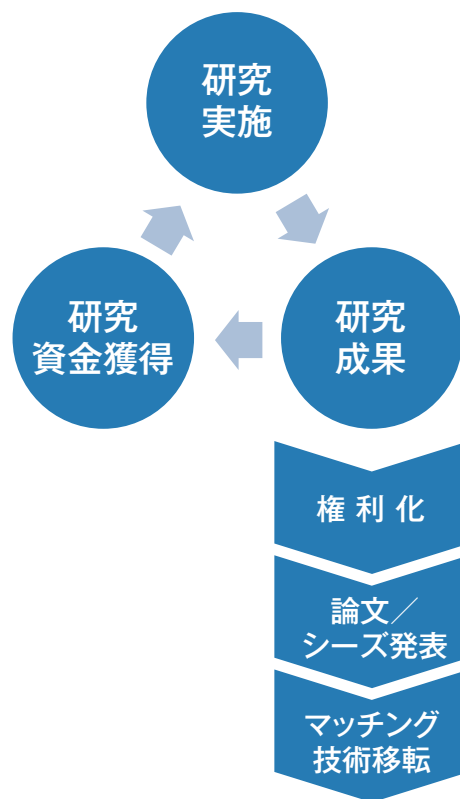
本学の教職員による発明等届出書の審議についても、迅速な審議・法人承継等の判断をおこなうべく、職務発明等規程の改正を契機として産学官連携推進センター内に設けられた発明等専門部会において、発明の審議・理事長答申が行われています。現時点における産学官連携推進センターの組織体制は、下図のとおりです。

組織体制図



教職員の皆さんによる職務発明等に係る特許権等は、職務発明等規程により本学が承継することになりますが、その手順の概略は、下記の図のようになります。

ご提出いただく発明等届出書の様式は大学 HP (http://www.naramed-u.ac.jp/library_center/sangakukan/policy.html) からダウンロード可能ですが、記載方法については、産学官連携推進センター事務局（研究推進課内線 2552）までお問い合わせください。



産学官連携は、上記の図にありますように、たくさんの研究成果の中から特許権等の権利化を行い、企業等への技術移転につなげていくことを一つのミッションとしています。これは、近年盛んに唱えられている大学の第 3 の使命である社会貢献を具現化したものです。

ここで重要なことは、権利化できる研究成果を見逃さず、的確にとらえる「研究の目利き」をおこなって、論文・学会発表等で公開する前に権利化（特許出願）しておくことです。

※発明については、vol.44 April 2013 p.14 産学官連携だよりをご参照ください。

産学官連携推進センターでは、平成 24 年 4 月から大野特任教授が着任され、研究成果を生み出すための外部資金の獲得から権利化、技術移転までの産学官連携の全般にわたって本学の研究者のサポートを行われています。しかし、大野特任教授一人で本学の研究すべてを把握することは不可能ですので、ご自身の研究についてご相談いただくことが、「研究の目利き」を行う際の貴重な情報源となって、産学官連携につながる研究成果を見逃さないことになり、その結果として本学における産学官連携が進展していくと思われます。

産学官連携推進センター（事務局内線 2552、大野特任教授内線 2481）では、研究者の皆様からの産学官連携に関するご相談をお待ちしています。

特別共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業の採択者が決定しました

本学の研究の一層の推進を目指して本年度から始まった特別共同研究助成事業・若手研究者研究助成事業について、下記の事業が採択されました。

特別共同研究助成事業には 10 件の応募があり、地域健康医学の車谷教授と循環器システム医科学の中川教授が代表研究者である共同研究が採択され、それぞれ 500 万円

が助成されます。

また、若手研究者助成事業には 7 件の応募があり、解剖学第二の森田助教、分子病理学の千原講師、羅助教、内科学第三の野口助教が採択され、それぞれ 50 万円が助成されます。

特別共同研究助成事業 採択者一覧

代表研究者			研究課題名	共同研究者
所属名	職	氏名		
地域健康医学	教授	車谷 典男	サーカディアンリズム、うつ、睡眠、糖・脂質代謝に白内障手術が及ぼす影響—大規模無作為化比較試験および傾向スコアマッチング前向きコホート研究—	眼科学：緒方教授・西助教・岡本助教、地域健康医学：佐伯学内講師・大林特任講師、産学官連携推進センター：刀根特任助手
循環器システム医科学	教授	中川 修	心血管発生・形態形成と新生児・成人疾患におけるシグナル伝達機構の意義	内科学第一：斎藤教授・染川助教、総合周産期母子医療センター：高橋教授・林助教、循環器システム医科学：坂部助教・林助教

選考委員コメント

本事業は、学内での独創的共同研究テーマを支援し、その研究発展が本学の学術領域を先導し、国際的研究レベルに到達することを目指しています。研究内容の独創性・今後の発展性・共同研究体制の確立に基づき、本年度の助成対象を決定しました。次年度は、より拡大した共同研究体制の基、さらなる独創的・先駆的研究テーマを積極的に提案されることを期待しております。

若手研究者研究助成事業 採択者一覧

所属名	職	氏名	研究課題名
解剖学第二	助教	森田 晶子	感知系脳室周囲器官における血管新生の生理的意義の解明とその人為的制御
分子病理学	講師	千原 良友	膀胱癌患者尿に生じるがん幹細胞シグナル異常の解明と尿中診断マーカーの開発
分子病理学	助教	羅 奕	膀胱癌における酸化ストレス応答としてのエピジェネティクス異常の解明
内科学第三	助教	野口 隆一	NA S Hにおける P A I - 1 の動態と新規 P A I - 1 阻害剤の可能性

研究成果・シーズを出展しました

●バイオアカデミックフォーラム

5月8,9,10日に東京ビッグサイトにおいて開催されたBioTech2013内のアカデミックフォーラムで、ブース展示及び口頭発表を行いました。BioTech2013にはアジア最大規模といわれる603社の企業出展があり、アカデミックフォーラムでは173名の研究者が最先端の研究について発表を行いました。本学からは第一内科学（当時は血圧制御学）の染川先生が「血管形成に必須のALT1と下流分子TMEM100の発見とそれらシグナルを用いた創薬」と題して発表し、製薬メーカーやバイオ企業と名刺交換しました。他の研究者の発表に刺激を受けたり、来場者との交流を行うことで研究、産学連携の発展に繋がるものと期待しています。

●けいはんなビジネスメッセ

7月19日にけいはんな学研都市において、けいはんな地域における企業や研究機関が研究成果の事業化や連携、

取引を促す目的で「けいはんなビジネスメッセ」が開催されました。今年で8回目の開催となり、奈良県、京都府、大阪府などから123の企業や大学、団体が出展し、本学も昨年に引き続き出展をしました。1,450名の来場者があり、本学の出展ブースにも多数の人に訪れていただけました。本学の研究成果を紹介するとともに、他の出展を行っている企業等との交流・情報交換を実施しました。



けいはんなビジネスメッセでの本学ブースの様子

女性医師のための第2回「カフェ JOYFULL」を開催しました

9月7日に県立奈良病院において、女性医師の応援事業である「カフェ JOYFULL」を奈良県（医師・看護師確保対策室）と本学の共催で開催しました。この事業は昨年度の開催に続いて2回目となります。

本学女性研究者支援センターの須崎コーディネーターと水野コーディネーターが司会とアドバイザーとして参加し、県立奈良病院に勤務されている5名の女性医師の方々の参加でワークライフバランスをテーマとして意見交換を行いました。参加された女性医師の方からは、ご自身の出産・育児などのライフイベント内容や、ライフイベントの中で助かった支援やあれば良いと思う支援についてお話いただきました。全員が育児支援、とりわけ院内保育園の充実を望んでおり、本学のなかよし保育園の拡充に強い関心を持たれていらっしゃいました。育児や介護を行いながら、臨床現場の第一線で働き続けることができるのは、病院と大学医局の同僚や先輩のおかげであると強い感謝の気持ちを持たれており、医長として活躍されている先生からは、無我夢中の数十年ではあったけれど、振り返るとあっ

という間で、中断せずにやり続けてよかったというお言葉がありました。様々な年代の異なる境遇にある女性医師が集まり、意見交換することは、自分の生き方を見直す良いきっかけとなり、明日への仕事の意欲を充実させる取り組みと考えます。医師であることに誇りを抱き、悩みながらも歩み続ける女性医師に、今後もエールを送ることが出来る支援活動を行いたいと思います。



意見交換を行う参加者

(病院管理課)
(研究推進課)

小児センターにキャラクターエプロン等を寄附頂きました

このたび、宇陀市在住の桶谷一成様より小児センターの環境充実のため、エプロンシアターやキャラクターエプロンをご寄附頂きました。

ご寄附いただいた桶谷一成様は宇陀市で蕎麦屋を経営されており、お店で余ったそば粉を御所市にある知的障害者日中活動多機能型施設に原価で卸し、同施設が作ったそば粉を使ったクッキーをお店に仕入れて販売し、その売上金の全額を募金活動に充てられていらっしゃいます。今回のご寄附は、この募金活動における初めての試みとのことでした。

ご寄附に当たっては、事前に寄附申出者とセンター長や師長等で病棟環境を充実させるために必要なもの等について話し合い、その結果、今回のキャラクターエプロン等となりました。

また、寄贈に合わせて二人のクラウン（道化師）による小児センター訪問が行われました。

クラウンのお二人は、病棟を巡り、入院中の子ども達や付き添いのご家族、病院スタッフの方々に滑稽なしぐさや軽妙な会話、手品やバルーンアートなど様々なパフォーマンスを行い、見る方に明るい笑顔を届けて頂きました。



ご寄附をいただいた桶谷一成様・智子様（前列中央及び右）

認知症疾患医療センター設立しました

精神科 教授 岸本 年史

認知症は、誰でも発症する可能性のある病気であり、早期受診・早期診断・早期治療が非常に重要です。しかしながら、認知症の診断は初期ほど難しく、高度な検査機器と熟練した技術を要する検査が必要であり、専門の医療機関への受診が不可欠です。奈良県における認知症疾患に対する保健医療水準の向上を図るとともに、認知症医療等の連携の拠点としての役割を果たすべく、平成25年8月1日に奈良県より、奈良県立医科大学附属病院が基幹型認知症疾患医療センターの指定を受けました。これまで奈良

県では、認知症疾患医療センターとして、県内の2つの病院を指定していました。「基幹型」認知症疾患医療センターとして指定を受けた当院が、既存の2つの認知症疾患医療センターと連携し、高度な医療技術を背景とした事業を実施することで、認知症患者への支援の充実を図るとともに、認知症に関する診断・治療技術の向上を図ります。認知症の早期発見・早期治療のため鑑別診断、もの忘れ・徘徊などの周辺症状や急性期治療、専門医療に関する相談などを行います。また、研修会等を開催し認知症に関する理解を深め、ご本人・ご家族を地域全体で支え合うことの大切さの普及と認知症に関する地域医療水準の向上を図っていきます。

(看護部)

腹膜透析医学会教育研修機関の認定を受けました

卒後臨床研修センター 准教授 赤井 靖宏

腹膜透析 (peritoneal dialysis: PD) は、患者さんが自分の腹膜を使用する透析法で、在宅で施行できます。PDの禁忌は少なく、多くの末期腎不全患者さんにPDの適応がありますが、実際のPD症例は全透析患者の3.1%に過ぎません。わが国では、高齢透析患者増加や在宅医療推進の観点から、さらなるPD普及が期待されます。PDが普及しない理由は複数ありますが、中でも腎不全患者さんがPDの説明を受けないうちに透析を開始されていることが大きな問題と考えられます。

そこで、腹膜透析医学会は、医療従事者にPDを知ってもらい、患者さんへのPD説明を促進し、PDをさらに普及させることを目的に、腹膜透析医学会教育研修を実施しています。受講者は、各地にある教育研修機関での研修を経て、年に2回行われる全国研修会を受講してPD認定指導者と認められます。教育研修機関は全国に10カ所あり、関西では奈良医大と大阪の北野病院の2施設が認定されています。奈良医大は2012年9月から研修施設に認定され、当院泌尿器科・透析部の吉田克法病院教授、米田龍生講師の多大なる協力を得て2013年2月から研修者を受け入れています。研修は、月に1回、2日間実施し、医師、看護師、薬剤師、栄養士、医療福祉関係者が講義や実習を担当し、チームとしてPD医療に取り組む姿勢を強調しています。現在までに、奈良県内をはじめ、滋賀県、大阪府、福井県、三重県などから33名の方に受講いただいております。教育研修施設に認定されたことで、PDに関係する本学医療スタッフの士気は高まり、チームとしてのPD医療をさらに進めて、患者さんにより質の高いPD医療を提供できるよう日夜研鑽を積んでおります。

看護部 主任 柳原 佳世子

2012年9月腹膜透析 (PD) 教育医療機関に認定され、2013年2月より研修生を受け入れています。当院での腹膜透析医療・看護が対外的な教育機関として評価された事を大変うれしく思います。

当院PD認定指導看護師は、病棟6名 外来1名 透析室1名の医師・栄養士・薬剤師・医療ソーシャルワーカーとチームを組んで、毎月2～3名の研修生を受け入れています。

研修の内容は保存期患者教育、導入期患者指導、外来でのPD患者のケアの実際、PD患者さんとの対話、透析室・腎教室の見学等です。これら看護師の担当者と医師・コメディカルの担当で2日間にわたり講義を行っています。

外来看護師は、末期腎不全患者さんが診察室で主治医に聞けなかったことにお答えし、患者さんの思いを傾聴することで治療に伴う不安を軽減することができます。また、個々の生活に合った治療法を自分で選択する機会を提供することが、看護の役割であると思います。当院では、2000年から外来看護師によるPD患者さんへの支援を始めました。私は2006年からPD看護に携わり、外来看護の中で患者の顔が見えない「看護とは何か」を考えさせられました。“多忙な外来・説明する場所がない”と決めつけていました。しかし、在宅治療をされている患者さんの苦悩を思った時、困っていることを一緒に解決したいという思いが強くなりました。患者さんのために何ができるのかと考え、“できない”と決めつけていた意識を変えたことで、忙しいと思っていた外来

でも患者さんに声をかけることができるようになりました。その結果、患者さんに寄り添い、闘病生活を支援していける看護のやりがい感を患者さんから教えていただきました。これらの経験を生かし、患者さん中心に私たち看護師がチーム医療の一員として関わっていることを、研修生に伝え少しでもPDの普及に貢献できればと思います。

PD教育機関に認定されたことを契機に、末期腎不全患者に対する理解を深め、透析療法選択からPD生活の支援までを担当できる多くのスタッフを輩出できると願っています。



PD チーム

感染管理室・ICT (Infection Control Team) での取り組み紹介

感染管理室 室長 笠原 敬

冬になるとインフルエンザやノロウイルス、夏にはアデノウイルス（プール熱）や手足口病、春と秋は少し落ち着くかと思いきや季節を問わず起こる水痘、麻疹、もちろん MRSA や *Clostridium difficile* に多剤耐性緑膿菌。最近では ESBL なんていう新しい耐性菌も増えてきましたし、今年は風疹が大流行しています。それだけでなく、忘れた頃に必ず起こる結核、針刺し事故対策に抗菌薬の適正使用。感染管理室に平穩が訪れることはありません。もちろん「起こってから」対処するようでは、感染管理室としては失格で、本当は「起こらないように」日頃からの予防と対策が必要です。

このように高度化・複雑化する医療を背景に増加する医療関連感染に立ち向かうため、感染症センター内に設置された感染管理室では昨年専従事務員が一人加わり、そして今年から感染管理看護師が専従2名体制になりました。

また薬剤師・微生物検査技師・医師も専任ではありませんが、今年度から感染管理に割く時間を大幅に増やしています。

いま私たちが最も力を入れているのは「教育業務」です。**ICTが主催する勉強会には、職員は「年2回」の出席が必須とされています。**医療関連感染を「起こらない」ようにするために、より一層皆様のご協力を賜れるよう、感染管理室一同頑張っておりますのでよろしくお願いいたします。



感染管理室のメンバー

紀伊半島地域医療連絡協議会を開催しました

卒後臨床研修センター 准教授 赤井 靖宏

紀伊半島地域医療連絡協議会（以下、協議会）は三重大学、和歌山県立医科大学、奈良県立医科大学が合同で開催しており、H25年度は奈良医大が世話人となって8月25日（日）、8月26日（月）の2日間にわたって吉野・辰巳屋を会場に開催された。医学生、臨床研修医、指導医、事務職員、行政担当者など、あわせて57名が参加した。協議会は、県境を接する三重県、和歌山県、奈良県の地域医療（特に、県境の医療）を考えるために年に1回開催されており、今回で3回目となる。過去2回は県境の医療を考えるフォーラムが開催されたが、今回は「地域医療者のキャリア形成」をテーマに、地域医療に従事する医師のキャリアをどのように築くかについて議論した。特別講演は桜井市の大福診療所所長、朝倉健太郎先生（本学 平成14年卒）をお迎えし、地域診療所で家庭医療に取り組む立場から学生・研修医に必要なキャリアについてお話しいただいた。朝倉先生の講演を受け、その後のパネルディスカッションでは、

各校1名ずつの学生、研修医をパネリストに、今後の地域医療の課題、キャリアを積んでいく上での問題点などについて討論した。学生・研修医からは、地域医療に従事しながら専門医取得などをどう効率よく進めていくか、地域医療はだれが担うべきか、などについて活発な議論



フォーラムの様子

が展開された。25日はほぼ全員が宿泊し、夕食を兼ねた情報交換会では、吉野名物行者鍋などのお食事をいただきながら学生・研修医や指導医の情報交換が行われた。明けて26日（月）は、6班に分かれ、奈良県内の様々の規模の医療施設を見学した。約1時間半と短時間の見学であったが、午後から開催された見学報告会ではスライドを使って各班が見学で得たことを発表した。

2日間の協議会であったが、参加者のアンケートでは、「いろいろな意見が聞けた」「地域医療を考えるよい機会になった」などの意見をいただいた。一方、「もっと3県の県境の懸案事項（救急医療など）を話し合うべき」といった意見もあり、今後の課題として次年度担当の三重大学にお伝えした。

今回の協議会では、見学施設の医師・事務職員の皆様には月曜という大変忙しい診療の合間に、見学者に有用な経験をさせていただいた。ここに深謝したい。また、当院病院管理課及び卒後臨床研修センターの事務職員の皆様には会の事務業務・準備を一手にお引き受けいただきました。



協議会参加者の皆様

活躍する認定看護師

がん化学療法看護認定看護師

腫瘍センター（外来化学療法室）宮本 拓



腫瘍センターの外来化学療法室に勤務している宮本拓です。

このたび、がん化学療法看護認定看護師の資格を取得しました。

近年、がん化学療法は日々進歩しており、分子標的治療薬や新規抗がん剤の開発・副作用対策の進歩により、患者さんの延命につながっています。しかし、患者さんやご家族にとっては、辛い闘病生活の延長ともなっています。

その中で私は、化学療法を受ける患者さんやご家族に対して、適切なアセスメントを行い、個別性を考えたより専門性の高い看護ケアを提供し、がんになっても普段通りの生活が送れるように、援助を行っていきたくと考えています。また、近年、抗がん剤曝露による危険性が、トピックとして挙げられています。患者さんやご家族はもちろんのこと、抗がん剤を扱う私たち看護師にとっても、安全・安楽・確実に投与管理が行える環境作りを行っていきたくと考えています。

がん化学療法について、疑問点や困ったことなど、相談があれば気軽にお声かけください。一緒に考えたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

糖尿病看護認定看護師

C病棟7階 吉田 直子



平成23年国民栄養調査では、成人の4人に1人以上が糖尿病かその予備軍と言われています。

当病棟は循環器腎臓代謝内科ですが、既往に糖尿病を持つ患者さんも多く、勤務を重ねるうちに患者さんが自分らしく糖尿病と共に生きていくことに寄り添うことやチーム医療の難しさを痛感しました。そこで働きながら学べる週末開校方式の岡山県立大学糖尿病看護認定看護師教育課程へ就学しました。週末は仲間と熱く看護を語り、学んだ新たな視点を週初めの業務に活かすことを心がけ、濃密な時間を過ごす中で必要に迫られ時間管理能力も向上したのではないかと感じています。

病棟では実践していることを意味付けしながら、ベッドサイドカンファレンスを通じてチームメンバーで共有しています。また今後は、糖尿病と共に生きる患者さんの理解を深めて誰もが不安なく支援する方法を検討したり、他職種や外来との連携を恒常的に実践していくシステム作りを行ったりしていきたいと考えています。これら活動を通じて今後も認定看護師として成長していきたいと思っています。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

B病棟5階 SCU 扇田 百合



脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は、脳卒中急性期における病態変化を予測し重篤化回避のためのモニタリング、病態に応じた早期離床と廃用症候群予防、生活の再構築を目指し看護実践を行っています。

脳卒中という疾患の特徴として、麻痺や失語・失認などの高次脳機能障害を有し、生活をする上で様々な困難さを感じながら日常生活に戻らなければならない現状があります。障害を抱えながら社会の一員として新たなセルフケアの確立を行う患者さんに、急性期病院とし回復期・維持期リハビリテーションにつなげられるような看護を行うため、他職種と共に協働チームで関わっていくことが重要であると感じています。実践した看護介入が患者さんのADLの拡大や心理的变化につながり、患者さんや家族と共に喜びを分かち合えることが看護のやりがいとなります。また家族の気持ちにも寄り添い、社会的資源も活用しながら、突然の生活の変化を余儀なくされる患者さんを支えていきたいと思っています。

脳卒中看護に関わるスタッフが、急性期から退院後の生活を見据えた看護実践が出来ることを目指し、認定看護師として看護モデルとなれるよう努力していきたいです。

乳がん看護認定看護師

B病棟6階 宮城 恵



乳がんは日本人女性の疾患別がん罹患率第1位で、毎年約5万人が罹患していると言われ、現在も増加傾向にあります。当院においても乳がん患者数は年々増加しています。

乳がんの治療法は、手術療法・化学療法・内分泌療法・放射線療法など高度化・多様化し、治療期間も長く、乳がん患者さんやそのご家族は、病気や治療に不安を抱えています。

そのため、乳がん看護認定看護師は乳がんに関する専門的な知識と技術を持ち、乳がんの患者さんやご家族に対して必要な情報やケアを提供し実践します。具体的な役割としては、乳がんの告知後の心理的サポート、治療法を選択する際の意思決定上の支援、リンパ浮腫予防のためのアドバイス、ボディイメージの変容に対する相談・支援を行います。

認定看護師として、患者さんやご家族の不安や疑問に耳を傾け、安心して治療や看護を受けていただけるような関わりを持ち、さらに、看護実践を通して乳がん看護の役割モデルとなり、看護スタッフと共に乳がん看護の向上を目指し取り組んでいきたいと思っています。

平成25年度 奈良県看護協会会長表彰 ～A病棟5階 片岡美代子師長～

受賞者からひとこと

今回思いかけず6月22日(土)万葉ホールにおいて、平成25年度奈良県看護協会会長表彰を受賞させて頂きました。謹んでお礼申し上げます。助産師として、臨床経験23年の中で巡り会った多くのスタッフと、助産師教育10年間で150名の助産師を送り出した中で、看護協会活動に貢献できたことがこの賞に繋がったと思います。今後も表彰の栄誉に恥じぬようさらに精進していく所存です。



写真：左から二人目が片岡師長

部門紹介

中央放射線部

中央放射線部は、検査・治療部門を担当している部門です。CT・MR検査など12室の検査室をもち、一刻も早く、1人でも多くの診断・治療に役立ててもらえるよう医師・看護師・放射線科技師が頑張っています。血管造影室の中には、心臓カテーテル室2室、IVR室3室があります。医師・看護師・放射線科技師・臨床工学技師が協力して治療に携わっています。

中央放射線部看護師は、18人と看護助手1人で、経験豊かな看護師が多く、一期一会を大切に、安心できるケアを提供するため、毎日、笑顔で患者さんを迎えています。平成24年度、年間IVR件数は、1130件、心臓カテーテル件数は、1114件(小児含む)と年々増加しています。緊急検査の増加や生命の危機的状況にあ

る患者さんの入室が多くなっています。診断・治療法は、日々高度で精密な方法が行われているため、看護師も最新の知識と技術が求められています。現在では、IVR学会認定看護師が活躍し、専門的知識と技術を持ち、日々活躍しています。今年度は、吉川教授や医師の協力のもと、患者・家族様の安全を考えた医療材料の特許を申請している看護師もいます。近日中に御報告できると思っていますので、楽しみにしてください。

また、部分休業に対する理解も深く、スタッフみんなで、子育てを支援しています。今後も働きやすい職場と専門性の高い看護をめざし、他職種者と連携し、頑張っていこうと思っています。



血管造影室スタッフです



心臓カテーテル室医療スタッフです



CT/MR 医療スタッフです

中央内視鏡・超音波部門

中央内視鏡・超音波部門は、専任医師、看護師、臨床検査技師、臨床工学技士など、多職種が協働している部門です。高齢化社会、低侵襲検査・治療へのニーズの高まり、QOLの向上等を背景に、飛躍的に専門化・高度化しており、注目が高まっています。

超音波検査部門では、年間約13,000件の検査を行っており、造影剤を使用しながら検査を行うことでさらに精度の高い診断が可能となっています。また、近年増加傾向にある乳がんの診断のため、超音波ガイド下乳腺穿刺細胞診(MMT)、穿刺吸引細胞診(ABC)も施行しており、乳腺の診断に重要な検査となっています。

内視鏡部では、年間約8,000件の治療・検査を行っており、以前は開腹手術を行っていた症例も内視鏡治療が適応される症例が増加し、入院期間の短縮、患者さんの苦痛の軽減、QOLの向上に大きな貢献をしています。

このように当部門では、専門化・高度化に伴いさまざまな医療機器を活用し、治療・診断・管理を行うため各職種が自分の持っている強みを互いに発揮し、足りない部分を補うことで患者さんに安心、安全な検査・治療環境の提供になると考えています。



小児センター (A病棟7階南)

当小児科は平成23年にセンター化され、奈良県下唯一の24時間体制で高度小児医療を実践する施設として機能しています。私たちは、小児医療に対する多様なニーズに対応できるよう、医療・看護の質を高めるべく、診療、教育、研究に励んでおります。小児センターの対象年齢は0歳から15歳以下で、病床数は31床です。一般小児疾患はもとより、血液、腫瘍、循環器、神経、腎臓/膠原病、感染症を重点的専門領域としており対象疾患も多岐にわたります。

入院環境においては、従来の院内学級制度に加え、今年度より院内保育士による病児保育が開始されました。子ども一人一人の成長・発達に合わせたかかわりを重視し、家族支援を視野に入れた療育環境のさらなる拡充を図っています。また、日々病気と闘う子どもたちに対して少しでも楽しく潤いのある入院生活が過ごせるよう、季節を感じる

さまざまなレクリエーションを開催しています。小児センターの強みは、医師、看護師の若さと他職種との固いチームワークです。スタッフは、和気あいあいと頑張りながら、未来を担う子どもたちの健康を守り、一人でも多くの子どもたちが笑顔でいられるよう一丸となっています。



平成 25 年度前期公開講座「くらしと医学」を開催しました

25 年度前期の公開講座を、9 月 7 日（土）に奈良県橿原文化会館 大ホールにて開催しました。

平成 6 年度から始まったこの講座も、今回で 31 回目となり、今回の会場である橿原文化会館での開催も 12 回目となりました。

当日は、約 600 名と多くの聴講者を得て次のとおり進められました。



喜多医学部長あいさつ

●喜多医学部長あいさつ

●講演

①上平 悦子准教授（精神看護学）

「認知症の人のために
家族ができること」

（座長：川上 あずさ教授）



上平准教授

②福井 博教授（第三内科学）

「肝臓病は隠れている
～肝臓を守るために気をつけたいこと～」

（座長：喜多 英二教授）



福井教授

③喜多 英二教授（細菌学）

「健康長寿のための
バクテリアとの付き合い方」

（座長：車谷 典男教授）



喜多教授

聴講者はメモを取るなど、熱心に聞いていました。また、日ごろの悩みなど、多くの質問もありましたが、演者の適切な回答に納得していました。

公開講座は、本学の地域貢献の一環として、「くらしと医学」をテーマに、広く県民の方に、医学・看護学の知識を解りやすく解説し、日々の暮らしに役立てていただくことを目的としています。25 年度後期の予定は下記のとおりです。



当日の様子



～次回公開講座の予定～

- 日時：平成 26 年 3 月 1 日（土）13：00～15：30
- 会場：なら 100 年会館 大ホール
- 講演：① 小西 登教授（病理病態学）
「がんの病理診断と治療への関わり」
- ② 藤村 吉博教授（輸血部）
「献血された血液による輸血医療の実際」
- ③ 細井 裕司教授（耳鼻咽喉・頭頸部外科学）
「どうして聞こえない？ どうしたら聞こえる？
～聞こえのための奈良医大発の新発見と補聴器・スマートフォンへの応用～」

(研究推進課)

医療倫理講習会を開催しました

8 月 23 日（金）、医療倫理講習会を開催しました。

この講習会は、「臨床研究に関する倫理指針」※に規定される“研究者は、臨床研究の実施に先立ち、臨床研究に関する倫理その他臨床研究の実施に必要な知識についての講演その他必要な教育を受けなければならない。”の一環として開催いたしました。

また本年度は「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令」（GCP 省令）における治験責任医師等の教育・訓練も兼ねて行われました。

講師には、早稲田大学人間科学学術院教授の土田友章 先生をお迎えし、「研究倫理：その概要と実践」と題してお話ししていただきました。

今後も年 1～2 回程度開催し、本学研究者の倫理的観点の更なる向上につなげていきたいと思っております。

※当該指針は下記 URL からダウンロードできます。

<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/index.html>



熱心に受講する参加者

～「医の倫理委員会」からお知らせ～

医の倫理委員会開催月日

原則として偶数月の第 3 月曜日 13：30～

※開催日、申請書の締め切りは
学内一斉メールで送信いたします。

レポート

第11回 役員会 (7月3日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 糖尿病学講座設置について
 - (2) 任期制教員の再任審査について
 - (3) 外部資金受け入れ制度の整備について
 - (4) 教授候補者の選考にかかる基本方針について
 - (5) 教員の人事について
 - (6) 職務発明等の認定、権利の承継、外国出願の可否等の決定結果について
 - (7) 外国人客員研究員の受入れ等について
- 2 奈良県立医科大学共催・後援名義使用の手続きの見直しを承認

第5回 教育研究審議会 (7月4日)

- 1 教授候補者の選考 (耳鼻咽喉・頭頸部外科学、輸血部、微生物感染症学 (現細菌学)、免疫学 (新設)、総合医療学) にかかる基本方針を承認
- 2 教員の人事について、7月31日付け・8月31日付け・9月30日付け退職、8月1日付け昇任、8月1日付け・9月1日付け採用を承認
- 3 奈良県の補助金による糖尿病学講座の設置を承認後、教授として石井均氏を選考
- 4 9月30日付けで任期満了となる任期制教員のうち再任申出のあった助教1名の再任を承認
- 5 脳神経外科学講座から推薦のあった臨床教授等の選考を承認
- 6 ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針及び細則の改正に伴う奈良県立医科大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究管理規程及び同倫理審査委員会規程の改正を承認
- 7 外部資金受け入れ制度の整備のため、共同研究取扱規程、受託研究取扱規程、研究試料取扱規程を承認
- 8 平成24年度の決算及び財務諸表の承認を報告
- 9 業務実績報告書の県への提出を報告
- 10 職務発明等の認定、権利の承継、外国出願の可否等の決定結果を報告
- 11 英国から客員研究員1名の新規受入れ、中国からの客員研究員の受入期間の変更を報告

第12回 役員会 (7月17日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 教員の人事について
 - (2) 教授候補者の選考に係る基本方針について
 - (3) 平成25年度医学科第2学年編入学試験について
- 2 平成26年4月1日採用予定看護職員の学校推薦採用試験において24名の合格者を決定

第6回 (臨時) 教育研究審議会 (7月25日)

- 1 教授選考 (基礎看護学) にかかる領域の教員からの意見聴取を行った後、基本方針を承認
- 2 教員の人事について、8月31日付け退職、9月1日付け採用を承認
- 3 平成25年度医学科第2学年編入学試験 (研究医養成コース、地域基盤型医療教育コース) の結果を報告

第13回 役員会 (8月7日)

- 1 平成26年4月1日採用予定の看護職員採用試験において12名の合格者を決定
- 2 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 職務発明等の認定、権利の承継、外国出願の可否等の決定結果について

第14回 役員会 (8月21日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 特任教員の配置申請について
 - (2) 併任教授制度の創設について
- 2 附属病院中央部門に先天性心疾患センターの設置を承認
- 3 患者満足の一層の向上を図るためホスピタリティマインド向上委員会規程 (案) を承認
- 4 平成25年度の財務状況 (6月末現在) を報告

第15回 役員会 (9月4日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 教員人事について
 - (2) 任期制教員の再任審査について
 - (3) 教員の海外留学について
 - (4) 看護学科一般選抜 (後期日程) 入学試験制度のあり方について
 - (5) 平成24年度及び中期目標期間の業務の実績に関する評価結果について
 - (6) 職務発明等の認定、権利の継承、

外国出願の可否等の決定結果について

- 2 平成26年4月1日採用予定の看護職員採用試験において本学より21名、本学以外より12名の合格者を決定。また、平成25年10月1日採用予定の看護職員採用試験において2名の合格者を決定
- 3 平成24年度財務諸表が奈良県知事より承認されたことを報告
- 4 5月9日、10日に実施された厚生労働省等による特定共同指導の結果を報告

第7回 教育研究審議会 (9月5日)

- 1 教員人事について、10月1日付け昇任、採用を承認
- 2 産学官連携推進センターからの特任教員の配置申請を承認するとともに平尾佳彦氏を特任教授として選考することについて医学科教授選考会議で審議することを承認
- 3 併任教授制度の創設するとともに上村秀樹氏 (英国ロンドン Royal Brompton Hospital, Consultant Cardiac Surgeon) を先天性心疾患センター併任教授として採用することについて医学科教授選考会議で意見聴取することを承認
- 4 1月31日付けで任期満了となる任期制教員のうち再任申出のあった教授1名の再任を承認
- 5 教員の海外留学について、集中治療部助教1名の海外留学を承認
- 6 看護学科一般選抜 (後期日程) の今後の入学試験制度のあり方を承認
- 7 平成24年度及び中期目標期間の業務の実績に関する評価結果を報告
- 8 職務発明等の認定、権利の承継、外国出願の可否等の決定結果を報告

第16回 役員会 (9月18日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 教員の兼務発令について
- 2 先天性心疾患センター併任教授について、上村秀樹氏を承認
- 3 50対1急性期看護補助体制整備を図ることを承認
- 4 特定共同指導に係る改善報告書 (案) を承認
- 5 平成25年度の財務状況 (7月末現在) を報告
- 6 9月1日付け先天性心疾患センターセンター長として病院長の兼務発令を報告

メディア掲載情報をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

掲載者	掲載メディア	掲載概要
小澤 健太郎 准教授 (薬理学)	毎日、読売、産経、日経、奈良新聞 朝刊他 【NHK 総合大阪】 おはよう日本、ニューステラス関西 【関西テレビ】 FNNスーパーニュース アンカー、FNNスピーク 【朝日放送】 ANN ニュース 7月16日 (火)	血液中の一酸化窒素 (NO) がパーキンソン病において活性が低下する蛋白質パーキンソンを修飾するアミノ酸残基を同定し、そのアミノ酸残基を他のアミノ酸に置換した変異体を作成することにより NO による修飾がパーキンソンを活性化させ、パーキンソン病における細胞機能障害を防いでいることを突き止めた。
熊井 司 教授 (スポーツ医学)	産経新聞 朝刊 9月5日 (木)	本年4月に開設されたスポーツ医学講座の教授に就任。 足関節の治療を専門とする整形外科医で特にスポーツ選手の治療を行う。治療の中心は「足関節鏡視下手術」で、この治療の日本におけるパイオニア的存在。これまでオリンピック選手をはじめ多くのプロ選手が治療に訪れている。現在は自転車ロードレースの「シマノレーシング」やJリーグの「柏レイソル」のチームドクターを務めている。今後の抱負として「患者に負担の少ない低侵襲治療法の開発や、『オーバーユース障害』の治療法の研究などに取り組んでいきたい」上記内容で「大和ひと点描」コーナーで紹介

学報バックナンバーは web サイト上でもご覧いただけます。
(<http://www.naramed-u.ac.jp/info/introduction/magazine.html>)

地域掲示板

ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、“村上食堂のおっちゃん”こと村上秀夫さんが6月にお亡くなりになりました。

村上さんは、そんぼ橋のそばの本店で修行し、ご結婚後、昭和32年から兵部町で奥さんとお二人でお店を続けてこられ、医大教職員はもとより地域住民の胃袋を満たしてくれていました。一口食べればなぜか懐かしさを感じ、心をほっこりさせる、そんな味でした。まぶたを閉じれば出前台車を一心に押すおっちゃんの姿が思い出されます。

おっちゃん! 安らかに眠ってください。

編集後記

2002年に学報の第1号が発行されて、今回が46号になります。第1生理学 山下勝幸教授、健康政策医学 今村知明教授に続いて編集委員長になりました精神医学の岸本です。本学の学生は医学科659名、看護学科353名、大学院生131名、教員、臨床研修医、事務職員など職員2,484名の総計3,627人が毎日勉学に励み、患者さんの幸福のために奉仕し、医学の発展に貢献しています。送り出した卒業生は4,643名にのぼります。このように大学は多くの人が集い多様な意見の場であり、皆が正確な情報を共有し、現状を把握し、分析したうえで、真摯な議論を尽くせるように、皆に見える、読まれる、愛される学報を目指したいと思います。皆様のご協力ご支援をお願いします。

○岸本 年史 (精神医学) 橋本 顕子 (精神看護学) 吉田 一良 (病院管理課)
藤本 雅文 (物理学) 堀口 陽子 (看護部) 森田 英之 (総務課・広報室)
笹平 智則 (分子病理学) 藤谷 威行 (研究推進課) 植松 聡 (総務課・広報室)
藤本 正男 (内科学第三) 永井 淳 (教育支援課) (○印は編集委員長)

患者様の想いを見つめて、薬は生まれる。

願教養を置く日も、薬をお届けする日も、見つめています。
病気とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。
私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、
そのぶん、患者様の想いになっすく向き合いたいと思います。
治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。
病気を見つめるだけでなく、想いを見つめて、薬は生まれる。
「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ

広告